

シグナル伝達医学講演会／薬理学特別講義  
くすりをういてサイエンスを楽しむ  
～薬理学の勧め～



成宮 周先生

京都大学医学研究科メディカルイノベーションセンター センター長  
京都大学医学研究科創薬医学講座 講座主任・特任教授

日時： 2018年1月30日（火）10:10～11:40 場所：神戸大学医学研究科大講義室

成宮先生は我が国を代表する医学・生命科学研究者です。生体機能の調節を行うプロスタグランジン全8種の受容体を同定、各々の欠損マウスと選択的薬物を創出し、これらを用いてプロスタグランジンの生理的・病態生理的意義を解明されました。また、低分子量G蛋白質Rhoの生理的意義とシグナル伝達経路を解明され、これまで不明であったアクチン骨格再編の分子メカニズムの一半と病態での意義を解明されました。いずれも生体分子の機能解明から薬物開発、またその薬物を用いた疾患治療の試みにまで至るもので、各分野の基盤を形成し、基礎医学と臨床医学の双方に大きな影響を及ぼしています。

本講演では、成宮先生のご研究をお聞かせいただきますとともに、医学・生命科学研究に対する考え方や今後の展望についてもご指導いただけますものと心より楽しみにしております。（文責 古屋敷智之）

参考文献（総説）・受賞歴など

1. Thumkeo D, Watanabe S, Narumiya S. Physiological roles of Rho and Rho effectors in mammals. *Eur J Cell Biol* 92: 303-315 (2013).
2. Aoki T, Narumiya S. Prostaglandins and chronic inflammation. *Trends Pharmacol Sci* 33: 304-311 (2012).
3. Narumiya S and Furuyashiki T. Fever, inflammation, pain and beyond: prostanoid receptor research during these 25 years. *FASEB J* 25: 813-818 (2011).
4. Narumiya S. Physiology and pathophysiology of prostanoid receptors. *Proc Jpn Acad Ser B Phys Biol Sci* 83: 296-319 (2007).
5. 紫綬褒章（平成17年）、恩賜賞・日本学士院賞（平成18年）、Inflammation Research Lifetime Achievement Award（国際炎症学会連合）（平成21年）、文化功労者（平成29年）など

主催：神戸大学シグナル伝達医学研究展開センター  
担当：神戸大学医学研究科薬理学分野・教授 古屋敷智之（内線5440）

連絡先：研究支援課研究企画係（内線5195）  
E-mail: k9shien@med.kobe-u.ac.jp